

フィリピン南部： ミスアリ元MNLF議長一派によるザンボアンガ市占拠事件

落合直之（元IMT 要員）

2013年9月9日(月)午前5時。

モロ民族解放戦線(Moro National Liberation Front; MNLF)のヌル・ミスアリ元議長(Nur Misuari元ムスリム・ミンダナオ自治政府知事; Autonomous Region in Muslim Mindanao; ARMM)率いる武装勢力多数が、ミンダナオ島西南部にあるザンボアンガ市(Zamboanga City)の南部地域、バシラン島(Basilan Island)と対峙する海岸沿いのリオ・ホンド村(Barangay Rio Hondo)から突然上陸し、周辺のサンタ・バルバラ(Santa Barbara)、サンタ・カタリーナ(Santa Catalina)及びマリキ(Maliki)など各村を占拠し、フィリピン国軍及びフィリピン警察と対峙することとなり銃撃戦を開始した。村々の住民は早朝しかも突然の戦闘行為によって逃げ場を失い、村内に閉じ込められてしまった。MNLF武装勢力は住民を人質に取り、また一部の住民を「人間の盾」として利用するなど抵抗を続けた結果、衝突による死者は103人(国家警察3人、国軍10人、民間10人、MNLF80人)、負傷者は180人(国家警察12人、国軍120人、民間人48人)に達した(9月19日フィリピン災害対策本部)。また、家を追い出された住民は国内避難民として、同市内の各所に設けられた避難所に身を寄せ、その数は10万人を超えている(9月22日ミンダナオ人権行動センター)。激しい銃撃戦によりMNLFは既に多数の戦闘員を失い、投降する者も相次いでおり、事態は徐々に収束に向かっている模様である。

今回の事件は、そもそも1996年のMNLF和平合意に遡る。1996年、MNLFはフィリピン政府と最終和平合意を締結した。ミスアリ議長(当時)は直後のARMM自治政府知事選挙で勝利し、知事の地位を得た。ミスアリ知事による統治は汚職の噂が絶えず、また行政サービスの不完全や遅滞が甚だしかった。知事続投を切望するミスアリ知事(当時)は、2003年の知事選挙を見据えるも自身の形勢不利と見るや、選挙の延期などを訴え、2001年11月にMNLFミスアリ派武装勢力を従えザンボアンガ市で武力蜂起した。フィリピン国軍・警察との武力闘争の果てにマレーシアに逃亡し、身を寄せようとしたミスアリ元議長は、マレーシア当局に逮捕された後、フィリピンに送還され収監された(その後、釈放された)。

MNLFは1996年和平合意内容の完全履行を求め、和平合意以降今に至るまでイスラム諸国会議(OIC)加盟国

であるインドネシアの仲介により、特に資源配分等権限に関わる事項につき交渉を続けている。一方、フィリピン政府はモロ・イスラム解放戦線(Moro Islam Liberation Front; MILF)との和平交渉を同時並行して進め、現在ようやく、包括的和平合意の締結が見えてきた状況である。既に2016年にはARMM自治政府を廃止して、新たな自治政府であるバンサモロ政府の設立が合意されている。この一連の政治プロセスとロードマップの策定には、ミスアリ元議長は全くインボルブされておらず、不満を大いに募らせて来ていた。また、ミスアリ元議長は本年5月のARMM知事選挙に出馬し、再び権力の掌握を望んだものの、結果は惨憺たるものであった。

権力から遠ざけられ、新しいバンサモロ自治政府の設立に影響を与えられない自身の不都合な状況は、ミスアリ元議長を切羽詰った行動に走らせているようである。本年3月に発生した、スルー王の末裔であるキラム3世一派によるマレーシア・サバ州への武力行使による不法上陸に関して、ミスアリ元議長は支援を表明した。また、先月にはバンサモロ共和国(Bangsamoro Republic)の一方向的な設立、所謂独立宣言を行い、世の中を賑わせた。

今回のザンボアンガ市での武装蜂起は、2001年のそれと同様な単なる無謀な政治的試みと見るだけではなく、ミスアリ元議長自身の(支援者を巻き込んだ)生命をかけた(無謀な点は変わらないが)政治的返り咲きを目論んだ試みとも見て取れる。

また、ザンボアンガで武力衝突が繰り返されている一方で、クアラルンプールではMILFとフィリピン政府の第40回和平交渉が行われていた。今回の交渉では、懸案の権力移譲と正常化についての合意には至らず、包括和平合意への道筋は依然険しいものであることが明らかになった。

ミスアリ元議長一派による武装蜂起が、MILF和平交渉に多大な影響を与えたとは考えにくいだが、今回の和平交渉で正に議論されていた武装解除や動員解除が、ミンダナオでは如何に困難であるかを、ザンボアンガの事件が如実に物語ったのは確かである。

ミスアリ元議長は未だに国家権力によって拘束されていないが(9月22日現在)、同氏の行動は依然として、ミンダナオを巡る様々な課題に対して小さくとも確実に影響し続けるであろう。(2013年9月23日)

落合直之
2013年9月22日

